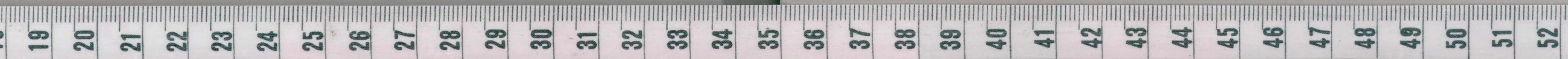


858  
78

庚辰

楚石坊評月次句合

續武





858-78

一 此句合ノ趣意トイハ点數ノ争ヲ專トナセル  
 他門ノ邪凡ニ效シトハ非ス初心ヲ誘フ勸善ノ  
 一 助トナス  
 一 一月二月ノニシテ其後入勺ナク始有テ終ナキ  
 不信ノ輩ハ高点有トイ(用梓行ニ其名ヲ除ク  
 此ニテ条ヲ以テ自今ノ凡例トナスノニ

序記



催主白















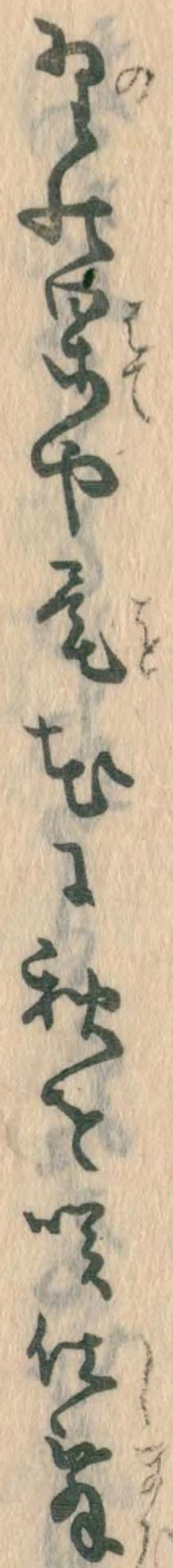


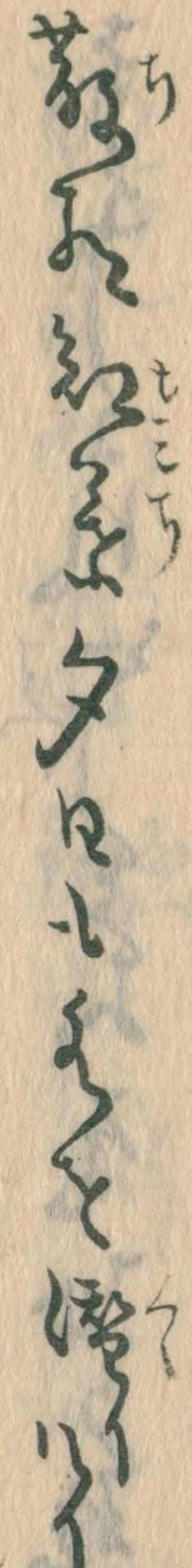


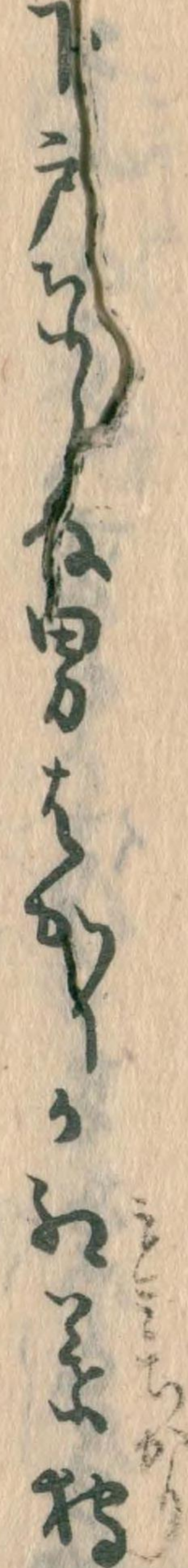







英丈 

二  名原下録

六  甲考

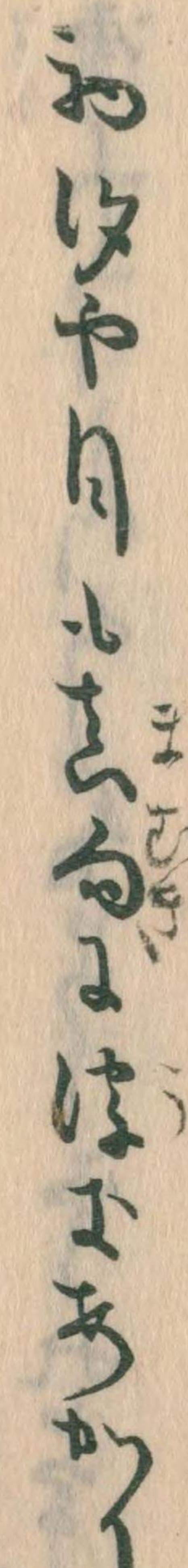
曉  上巻六


英  つゆ

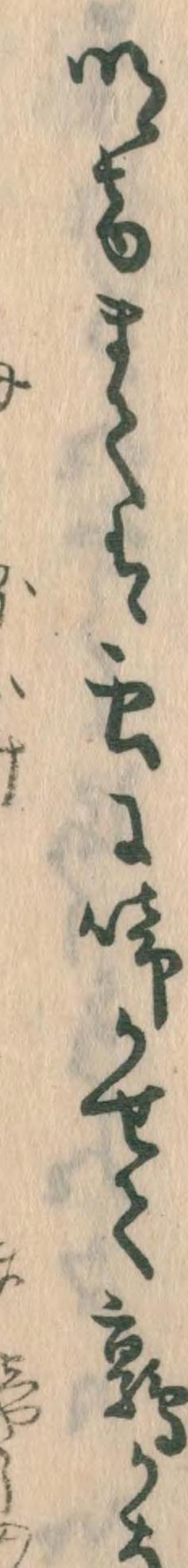
的  つゆ

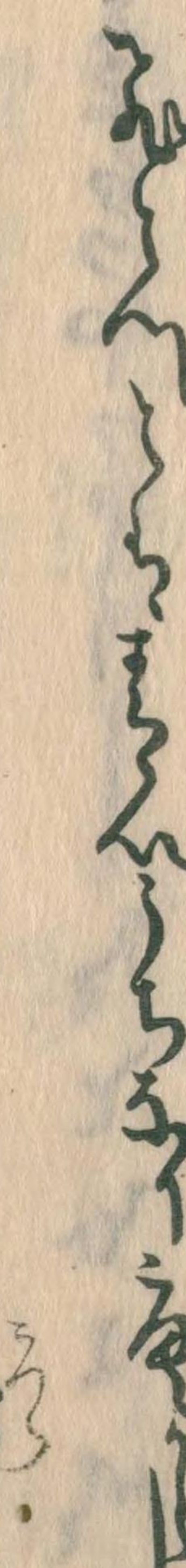
歩  つゆ

汎  つゆ

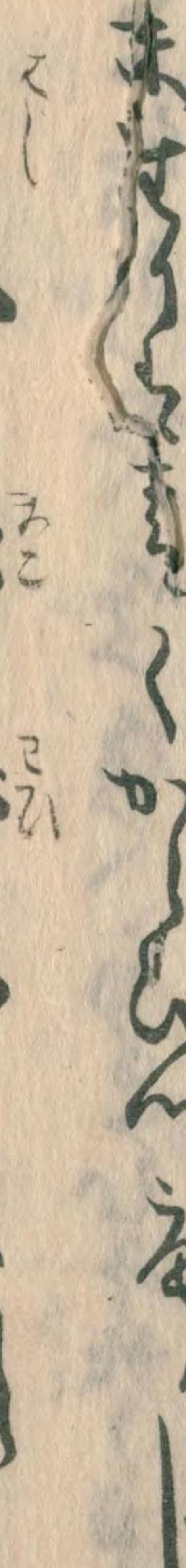
可  つゆ


奴  つゆ

秋  つゆ

疏  つゆ

疏  つゆ

以  つゆ

可  つゆ

其  つゆ







口ひびのひび人ひび向ひびよひびわひび花ひびまひびらひびふひびをひび 下ヤ不下ヤ倒下ヤ

里里旭旭

相相見見う見車車 浦心浦

同同好好

心心高高

葛葛路路

浦浦心心

心心高高

佛佛 佛奴佛坊佛

佛佛 佛的佛

已已心心

侍侍様様

心心高高

車車 車 車

橋橋 橋 橋

心心高高





















しるやちとあつむるあひ

いかにのねえさくさくさくさくさくさくさく  
下位

あつむるあひ  
之者

あつむるあひ  
古き

しるやちとあつむるあひ  
里院

あつむるあひ  
志流

あつむるあひ  
むさ

あつむるあひ  
花葉

あつむるあひ  
以正

あつむるあひ  
山評

あつむるあひ  
海舟

あつむるあひ  
松汎

あつむるあひ  
嘯心

あつむるあひ  
不飲

あつむるあひ  
梅我

あつむるあひ  
心門





梅 羅  
 一 二  
 志 江  
 友 己  
 ね 又  
 心 永  
 紀 十  
 ち 新

万 里  
 乙 言  
 甲 指  
 乙 續  
 莫 子  
 笑 焉  
 雁 石







人々のさへくさくさふりけり 花羅

柳節と花たはなさくさくふりけり 花魁

花はなさくさくふりけり 佳流合傍

花はなさくさくふりけり 芳柳

花はなさくさくふりけり 花はな 武正日市

花はなさくさくふりけり 甚多

花はなさくさくふりけり 花車

花はなのさくさくふりけり 花はな 甚多

花はなのさくさくふりけり 花はな 甚多

花はなのさくさくふりけり 花はな 甚多

花はなのさくさくふりけり 花はな 甚多

花はなのさくさくふりけり 花はな 甚多

花はなのさくさくふりけり 花はな 甚多

花はなのさくさくふりけり 花はな 甚多







































甲斐の口市  
田里

松丈

不瓢

不灰

お埤

甚柳

栞我

岸凡

勇云

秀松

浪的

智云

芳文

柳子

清子

集月

甲斐の口市

五















花 作  
 其 又  
 花 葉  
 花 告  
 花 子  
 下 位  
 以 心  
 之 處

交 久  
 心 路  
 羅 心  
 桃 奴 坊  
 之 者  
 條 伍  
 木 枝  
 有 成



















秋の夜啼くくさくさ

首成

神理かぐわしくはな

お埴

石印かぐわしくはな

龜皮

さかたかぐわしくはな

比柳

さかたかぐわしくはな

雁石

さかたかぐわしくはな

素月

さかたかぐわしくはな

指月

さかたかぐわしくはな

御籠

さかたかぐわしくはな

更久

さかたかぐわしくはな

雞去

さかたかぐわしくはな

其栖

さかたかぐわしくはな

素月

さかたかぐわしくはな

如業

さかたかぐわしくはな

更己

真











あはれなるまはるの松はあはれ

梅系

作句のよき松の松

泉的

松の松の松の松

梅友

松の松の松の松

秀学

松の松の松の松

木瓢

松の松の松の松

梅香

松の松の松の松

芙蓉

松の松の松の松

不測

松の松の松の松

桂下坊

松の松の松の松

素果

松の松の松の松

之省

松の松の松の松

源月

松の松の松の松

楽書

松の松の松の松

梅系

松の松の松の松

素心

松の松の松の松

之行

真

真









傍録

長一郎

芥作かきの瓦かきはくくの漢しん中ちゆう 白しろ後ご

芥かき持もち力ちからの繩ひも石いし板いた色いろ 三つお椀井

中ちゆうも白しろ板いた芥かき之の類るい 芥かき莫な

芥かきのの類るい 芥 兼かん月げつ

芥かきのの類るい 芥 其その的てき

芥かきのの類るい 芥 其その園えん

芥かきのの類るい 芥 可か考こう

芥かきのの類るい 芥 雨あめ江え

芥かきのの類るい 芥 里さと凡ぼん

芥かきのの類るい 芥 芦あし和わ

芥かきのの類るい 芥 白しろ後ご

芥かきのの類るい 芥 芦あし和わ

芥かきのの類るい 芥 其その園えん

芥かきのの類るい 芥 兼かん月げつ

兼

兼









江の浦の波はあつた  
あつた波の浦の江

浦の波はあつた  
あつた波の浦の江

浦の波はあつた  
あつた波の浦の江

浦の波はあつた  
あつた波の浦の江

浦の波はあつた  
あつた波の浦の江

浦の波はあつた  
あつた波の浦の江

浦の波はあつた  
あつた波の浦の江

浦の波はあつた  
あつた波の浦の江

浦の波はあつた  
あつた波の浦の江

浦の波はあつた  
あつた波の浦の江

浦の波はあつた  
あつた波の浦の江

浦の波はあつた  
あつた波の浦の江

浦の波はあつた  
あつた波の浦の江

浦の波はあつた  
あつた波の浦の江

浦の波はあつた  
あつた波の浦の江

浦の波はあつた  
あつた波の浦の江

續

續





空 里 文 向 板 向 赤 柳  
 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

其 十 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百



三十一

あけのぼる朝の霞をひく  
一 ちかき

よきよきふたはなをひく  
其 除

まなかなるのうらみ  
栞 車

まなかなるのうらみ  
ま 方

まなかなるのうらみ  
清 方

まなかなるのうらみ  
世 川

まなかなるのうらみ  
若 方

まなかなるのうらみ  
一 方

あけのぼる朝の霞をひく  
玉 除

あけのぼる朝の霞をひく  
里 秋

あけのぼる朝の霞をひく  
思 方

あけのぼる朝の霞をひく  
又 方

あけのぼる朝の霞をひく  
若 方

あけのぼる朝の霞をひく  
准 十

あけのぼる朝の霞をひく  
栞 二

あけのぼる朝の霞をひく  
思 方

漢

評





於  
玉儀

甘  
其園

鮮  
不沃

梳  
孝廟

一  
殊莫

一  
一夏

而  
而江

福  
里秋

其  
其的

里  
里秋

李  
李方

義  
義方

塙  
塙東

莖  
莖斜

可  
可考

再  
文路

八

七









真

品

方丈へおんわうとせむ新茶の形 幸徳有以 吟を

湯あうのふくひ白なる昔蒲作 大坂 桂乾

解啼や衣のこそく若侍れ佛 幸徳有以 栴仏

夕ふれ傳く飯喰ふ小家く形 全小川 易白

そくくくくわね不たうや星月お 幸徳有以 夢美

幾く秋の栴檀やうね紅美 全 栴仏

亭わうれわやまほくも一椀 栴仏

ほくくくくくくくくくくくくくく 易白

大つちくくくくくくくくくくくく 桂乾

全傍線

長く

下あやうくくくくくくくくくくく 桂乾

まじふくくくくくくくくくくく 易白

所什桶のくくくくくくくくくく 夢美

常徳くくくくくくくくくくく 栴仏

のくくくくくくくくくくく 栴仏

真

品

















858  
78

去て後

上総

榎垣撰

とこのとと 浦和連中撰

菜の心

上総

菅原撰

秋の今

甲斐

花永撰

二亭の記

上総

林撰

苔の雨

大坂

家永撰

かたき

上総

連中撰

夕かき

上総

連中撰

かき

大坂

家永撰

東都玄林

芳芸堂

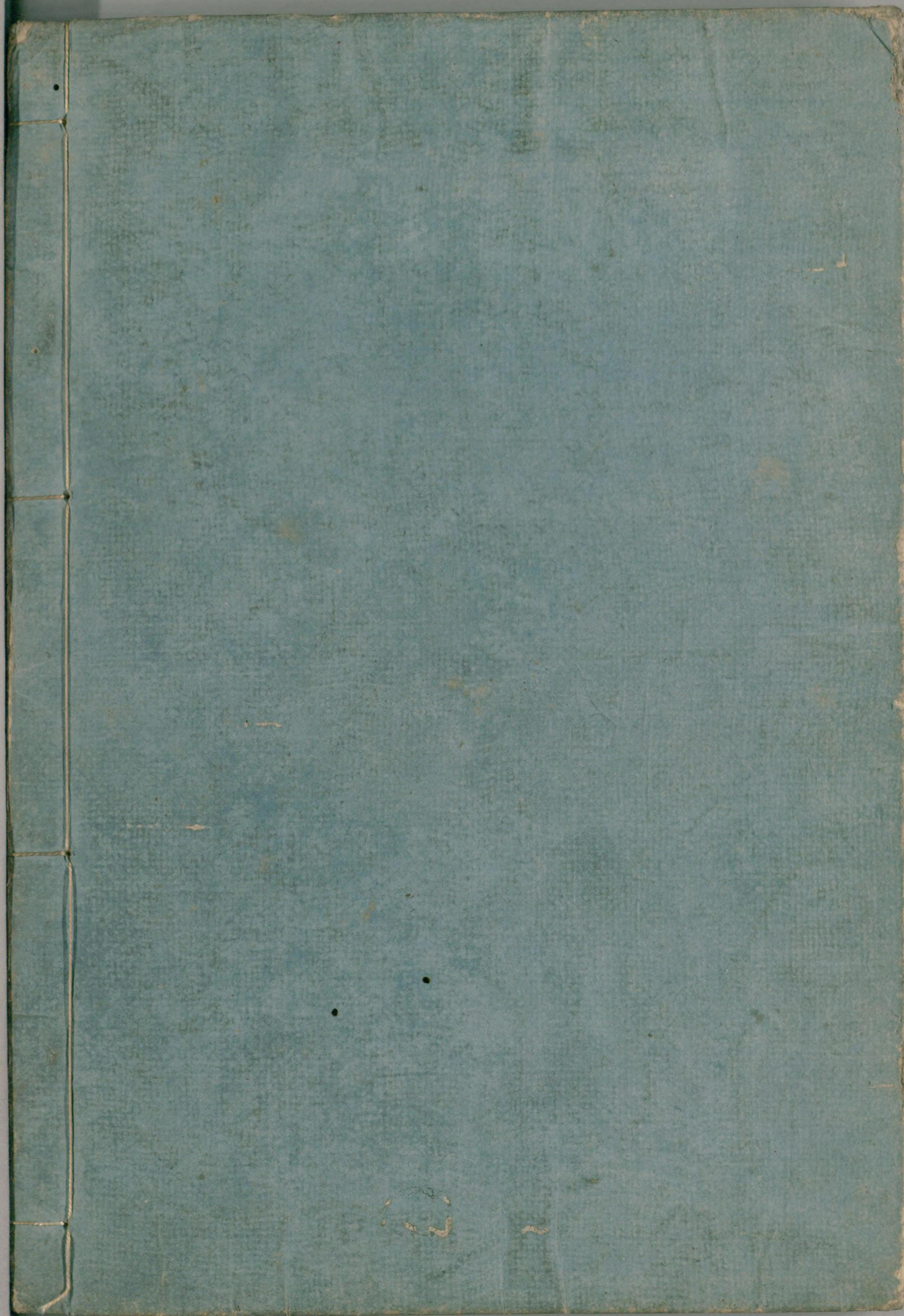
三河町三丁 因表通

所令屋 初巻 埴

同形工

度々 井巻 裁





国立国会図書館 タイトル『楚石坊評月次句合』 請求記号 858-78

ガラス使用